

以下は、2025年11月2日、沖縄県うるま市で開催された"日本口腔検査学会第18回学術大会（大会長 康本征史先生）"の歯科衛生士セッションで登壇した際の20分講演音声をNotebookLMに読み込ませ、物語風に変換(Transform)したものです。原文のママをPDF化していますが、Google Geminiが持つ桁外れの「国語力」にご注目ください。ドクターにしだのお笑い講演が、感動的な物語に醸成されており、もはや演者本人を超えています😭

にしだわたる糖尿病内科 院長 西田 亙

未来を救う、一本の歯から

導入：登場人物と物語の背景

若き歯科衛生士のひかりは、仕事に燃える情熱と、ある種の無力感との間で揺れていた。口腔ケアが全身の健康を守り、患者の人生そのものを支える尊い仕事だと信じている。しかし、その真の価値は、まだ世の中に届いていない。

患者の恵子さんは、長年患う糖尿病との闘いに疲れていた。食事に気をつけ、運動をしても、血糖コントロールの指標であるヘモグロビンA1cの数値は改善の兆しを見せない。下がり続ける数値への希望と共に、治療への意欲も失いかけていた。

その母に付き添う高校生の娘、未来（みく）。心優しく母親を気遣う彼女にとって、歯科衛生士とは「歯をきれいにお掃除してくれる人」。その言葉の裏に隠された専門性や、母が抱える問題との繋がりなど、知る由もなかった。

どんよりと曇った午後、糖尿病内科の診察室には重い沈黙が流れていた。医師が告げた「残念ながら、ヘモグロビンA1cの数値、今回も改善していませんね」という言葉に、恵子さんは深くため息をつき、その肩を小さく落とした。未来は母の横顔を心配そうに見つめることしかできない。その時、医師がふと顔を上げた。「…そうだ。一度、歯周病の検査も受けてみてはどうでしょう？」

第1章：出会いとすれ違い

内科医の勧めで歯科医院を訪れた恵子さんと未来。二人を担当することになったのが、ひかりだった。明るくハキハキと問診を進めるひかりに、未来が何の気なしに尋ねる。「あ、看護師さん？母の歯、お掃除してくれるんですよね？」

その言葉に、ひかりの胸の奥がズキリと痛んだ。笑顔で「私たちは歯科衛生士ってなんですよ」と応えるが、未来はピンと来ていない様子だ。

(まただ…『看護師さん』…)

ひかりの脳裏に、学生時代に尊敬する講師から聞いた話が蘇る。ある実習生が、患者から「唾を吸う人」と呼ばれ、トイレで一人泣いていたという話。悪気がないのは分かっている。でも、この何気ない言葉の裏には、私たちの専門性が70年以上も正しく理解されてこなかった歴史がある。悔し涙を流した先輩たちの顔が浮かぶ。

しかし、彼女は落胆しなかった。むしろ、心の中で静かな炎が燃え上がるのを感じていた。(見ていて、未来ちゃん。私たちの仕事が、どれだけ人の未来を救う力を持っているか。今、ここで証明してみせるから)

第2章：衝撃の事実 ― 歯と糖尿病の繋がり

ひかりが恵子さんの口腔内を丁寧にチェックすると、歯周病がかなり進行していることが一目でわかった。彼女は器具を置くと、専門家の顔つきで二人に向き直った。

「恵子さん、お口の中の状態から見て、歯周病が糖尿病の治療を難しくしている可能性が非常に高いです。実は、この二つは互いに足を引っ張り合う『負のスパイラル』の関係にあるんです」

ひかりは、未来にもわかるように、ゆっくりと、しかし熱を込めて説明を続けた。「歯周病菌が出す毒素が血流に乗って全身に広がると、血糖値を下げるインスリンというホルモンの働きを邪魔して、糖尿病を悪化させてしまう。そして、糖尿病が悪化して高血糖の状態が続くと、今度は体の抵抗力が落ちて、歯周病の治療をしてもなかなか治らない。二つが絡み合って、どんどん悪い方へ向かってしまうんです」

説明を聞き、恵子さんと未来の表情が絶望の色に染まっていく。その瞬間を、ひかりは待っていた。

「でも、逆もあるんです。希望のサイクルです！」

ひかりの声に、力がこもる。「つい最近、2024年の歯科衛生士国家試験で、歴史を変えるような問題が出題されました」彼女は一呼吸おいて、二人の目をまっすぐに見つめた。「『糖尿病患者において、歯周治療により改善が期待されるのはどれか？』…答えは、何だと思いますか？」

未来が首をかしげる中、ひかりは震えるほどの感動を声に乗せた。「答えは…『ヘモグロビンA1c』なんです。信じられますか？国が、私たち歯科衛生士の専門的な治療で、糖尿病そのものが改善すると、国家試験の問題として公式に認めたんです。これを見たとき、多くの歯科関係者が涙しました。私たちの仕事は、ただの『お掃除』じゃない。お口を通して、恵子さんの人生と未来を、本気で救うことができる仕事なんです！」

ひかりの言葉に、恵子さんの手がそっと口元に当てられ、その瞳から大粒の涙がこぼれ落ちた。未来は、目の前のひかりが全くの別人に、希望を灯す光の使いに見え、ただ息を呑んで見つめていた。

第3章：共に歩む治療の道

その日から、ひかりと恵子さんの二人三脚での挑戦が始まった。ひかりの仕事は、単なる「治療」ではなかった。それは、専門家としての「治療」（スケーリングやSRPによる歯石・感染物質の徹底的な除去）と、患者に寄り添う「指導」（日々のセルフケアについての丁寧な口腔衛生指導、OHI）、その二つを高いレベルで両立させる、歯科衛生士だけが持つ特別な力の発露だった。

治療のたびに恵子さんを励まし、専門知識を分かりやすく伝え、共に未来を見据える。その姿は、未来が思っていた「お掃除する人」とは全く違う、知識と技術、そして深い愛情を兼ね備えた医療専門家そのものだった。

ひかりの熱意に導かれ、恵子さんは失いかけていた希望を取り戻していった。自宅での歯磨きにも真剣に取り組むようになり、表情が日に日に明るくなっていく。その変化を一番近くで見ていた未来の心には、ひかりへの尊敬の念が芽生えていた。「人の人生を根本から支える、なんてすごい仕事なんだろう」と。

終章：ひかりが灯した未来

数ヶ月後。恵子さんは再び糖尿病内科の診察室にいた。医師は検査結果を見るなり、驚きの声を上げた。「すごい！恵子さん、ヘモグロビンA1cが劇的に改善しています！食事や運動で、何か特別なことをしましたか？」

問いかけに対し、恵子さんは満面の笑みで、誇らしげに答えた。「はい、素晴らしい歯科衛生士さんに出会いました」

治療が一段落した日、未来はひかりにまっすぐな瞳で告げた。「私も、ひかりさんみたいな歯科衛生士になりたいです」その言葉に、ひかりの目頭が熱くなる。彼女は未来の肩をそっと抱き、語りかけた。

私たちの仕事は「**歯を守り、生きるを護る**」こと。お口の健康を守ることで、その人の人生そのものを守る、本当に尊い仕事なのよ。

「令和の時代に歯科衛生士として活躍できる幸せ」― ひかりは、先人たちが70年以上の歳月をかけて紡いできた歴史の、その最先端に自分が立っていることを実感していた。彼女の情熱は、確かに一つの家族の未来を変え、そして今、次の世代へと受け継がれていく。新たな患者を笑顔で迎える彼女の胸に、ある言葉が力強く響いていた。

「大きな太陽を掴め、新たな時代を拓こう」 — 一人の歯科衛生士の情熱が、患者の未来を、そして次の世代の夢を、明るく照らし出した。